

# 石川県七尾美術館だより

平成23年7月1日発行  
編集・発行 石川県七尾美術館

## 第66号 (夏号)



ISHIKAWA  
NANAO  
ART MUSEUM

### 長谷川等伯展

～「信春時代」-等伯のプレリュード～ より

### 「花鳥図屏風」

長谷川信春（等伯）

桃山時代（16世紀）

縦153.7 横349.8 (cm)

個人蔵



# 展覧会紹介

平成23年7月2日(土)～

9月11日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

## 「長谷川等伯展」

「信春時代」―等伯のフレイユード―

8月6日(土)～9月11日(日)

〔会期中無休〕

### ◆第一・第二・第三展示室

能登七尾出身で、桃山時代に大活躍した画家・長谷川等伯(1539～1610)。能登、次いで京都を舞台に彩色画や水墨画、金碧画など幅広いジャンルの作品を制作、「長谷川派」の総帥として桃山画壇に一時代を築き上げました。

等伯が描いた作品は、現時点で京都や北陸地域などに約90点が遺されています。それらは「日本水墨画の最高峰」と称される「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)や、絢爛豪華な桃山文化の象徴とされる「祥雲禪寺障壁画」(京都市・智積院蔵)、自らの想いを巨大な画面に余すことなく込め、見るものを圧倒する「仏涅槃図」(京都市・本法寺蔵)など、いずれも貴重な名品ばかりです。

また、住職の留守中に許可なく襖絵を描いたという逸話や、当時の最大画派「狩野派」との対決、そして画壇の頂点に立ち、栄光につつまれた利那の後継者たる息子の死という悲劇など、その



「十二天図」(梵天)  
長谷川信春(等伯)筆  
羽咋市・正覚院蔵

波乱万丈の人生は様々なエピソードで彩られています。人物としてみても、等伯はとても魅力的な存在といえるでしょう

当館では開館以来、この郷土出身の偉大な画家を重要なテーマのひとつとして、これまで調査研究の実施、そして等伯やその一門である「長谷川派」の作品や史料を紹介する展覧会を、シリーズとして開催してきました。

昨年は「長谷川等伯没後400年」という節目の年として、記念の展覧会や調査など様々な行事が開催されましたが、その中で等伯の「信春時代」に関する様々な発見があり、その重要性が改めて注目されているように思われます。

そこで16回目の開催となる今回は、「信春時代」に焦点をあて、昨年新しく確認された初公開作品を含む26点の作品を紹介予定です。



「芦葉達磨図」  
長谷川信春(等伯)筆  
岡山県立美術館蔵

### ●「信春時代」とは

等伯の画業は大きく二期に分けられます。第一期が七尾誕生より京都移住後間もない頃までの、おおよそ40歳代頃までで、「信春」の名を使用していた時期。そして第二期が「等伯」と改名し桃山画壇で活躍、江戸で72年の生涯を閉じるまでの時期となります。その第一期にあたる、いわば等伯の前半生といえるのが「信春時代」です。



重文「日蓮上人画像」  
長谷川信春(等伯)筆  
京都市・本法寺蔵

また、「信春時代」は能登時代と京都時代に大別されます。等伯は20歳代より本格的に制作活動を始めたといわれ、現時点では26歳からの作品が確認できます。

描いているのは主に仏画で、実家奥村家や養家長谷川家が熱心な法華宗信者であったためか、現存作品の多くが日蓮宗寺院に所蔵されています。そうして30歳頃までは能登を拠点としていた等伯ですが、やがて京都に活躍の舞台を移します。その理由としては、両親が没したことや能登国の政治的混乱を避けたことなどが言われていますが、本当のところはわかりません。かつてはこの時に初めて上洛したとされていますが、近年では等伯はそれ以前より京都へ赴いており、すでにある程度の足がかりを持っていたのではないかと考えられています。

京都移住後の等伯の動向は謎につつまれています。しばらくは本法寺を拠点にしていたようですが、その後50歳頃までの間、等伯の行動を伝える確実な作品や史料が確認されておらず、何をしていたのかわからないのです。一説には「狩野派」の門下で修行をしていた、あるいは和泉国(大阪府)堺へ行っていた、などともいわれます。京都でも通用する画技を磨くこと、そして広い人脈を形成することが目的だったのでしょうか。

そして51歳の時に「等伯(白)」の名で画壇に登場、ここに「信春時代」は終わり、等伯の本格的な京都での活動が開始されたのです。

## ●「信春時代」の作品●

等伯は「信春時代」よりすでに幅広いジャンルの様々な作品を描いており、早くから様々な技法を学習していたことを窺わせます。

彩色画は能登時代の早い時期よりみられ、緻密な線描と鮮やかな彩色を特色とします。特筆されるのが華麗な彩色の見事さで、これは長谷川家が染色業を生業とし、等伯もその中で色彩感覚を身につけたからだといわれます。さらに、優れた画技を持っていた養父・長谷川宗清（1507～71）の影響も強く受けているようです。

また、水墨画は能登時代の作例は少なく、京都移住後の制作といわれる作品が多くみられます。これは等伯が京都移住後より本格的に水墨画の学習を始めたことを窺わせますが、それらの作品は「狩野派」風や「曾我派」風など幅広い作風がみられ、等伯が様々な画派を熱心に学習したことを感じさせて興味深いです。

そしてこれまで作例がなかった「信春時代」の金碧画ですが、昨年初めて「花鳥図屏風」（個人蔵）が確認されました。このことで等伯が「信春時代」より彩色画・水墨画のみならず、金碧画をも学んでいたことがわかったのです。

等伯は「信春時代」にあらゆる画技を習得し、満を持して「等伯」と改名したのかも知れません。そういった意味でも、等伯にとって「信春時代」は、桃山画壇に飛翔する前段階の重要な蓄積期でもあった、といえるのではないのでしょうか。



「鬼子母神十羅刹女図」  
長谷川信春(等伯)筆  
富山市・妙傳寺蔵



「日蓮聖人画像」  
長谷川信春(等伯)筆  
珠洲市・本住寺蔵

## ●等伯養父・長谷川宗清●

等伯は幼少の頃、長谷川家の養子となりました。養父の宗清は、七尾城下で染色業を営む家柄であったといえます。伝承ではこの人物は絵が巧みで、等伯は宗清より絵の手ほどきを受けた、とされます。ところがこれまでは宗清の基準となるべき作品が1点もなく、本当に等伯に絵を教えるほどの技量を持っていたのが不明でした。

しかし昨年、宗清が描いた作品が2点確認されるという、大発見がありました。いずれも仏画で、細密な筆致と鮮やかで装飾的な彩色が施され、一見して優れた技量を持つ者の筆であることがわかります。このことは、宗清がただの染物業ではなく職業絵師でもあったことを窺わせ、つまり等伯に絵を教えたという伝承が事実である可能性が俄然高まりました。

宗清の作品を見ると、等伯作品との共通点があったところで見いだせます。さらにサインの書き方までそっくりという念の入れようです。このことは、いかに等伯が宗清から大きな影響を受けていたかを表すものといえます。

本展では、この宗清の作品2点を初展示します。等伯の作品と比較しながら鑑賞するのも一興でしょう。



「宝塔絵曼荼羅図」  
長谷川宗清(道浄)筆  
水見市・蓮乗寺蔵

## 《関連事業》

① 当館学芸員によるギャラリートーク【要申込・要観覧券】

日時 8月14日(日)

日時 (1)午前10時～ (2)午後2時～

会場 当館展示室

定員 各15名(先着順)

申込開始 7月24日(日) 午前9時～

申込方法 電話にてお申し込みください。

七尾美術館 ☎0767(53)1500

友の会会員先行受付

7月2日(土) 午前9時～

② 記念講演会【聴講無料】

日時 8月21日(日) 午後2時～

会場 当館アートホール

講師 山本英男氏(京都国立博物館美術室長)

演題 「京都での長谷川信春」

※「聴講の方に等伯関連絵ハガキを1枚プレゼントします。」

③ 等伯子どもなんでもクイズ【参加無料・小中学生対象】

日時 会期中開館時間内随時

会場 当館展示室

※全問正解された方の中から抽選で、等伯グッズをプレゼントします。



「海棠に雀図」  
長谷川信春(等伯)筆  
個人蔵

## ◇観覧料

	個人	団体
一般	700円	600円
大高生	3500円	3000円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

# 「池田」レクシオン優品展」

「新寄附作品・用の美「根来」を中心」

7月2日(土)～31日(日)

## 第一・第二展示室

「池田コレクシオン」は、七尾市出身の名誉市民であった池田文夫氏(1907～87)が蒐集した美術品のコレクシオンです。

池田氏は昭和23年に岐阜県大垣市で会社を設立し、中部地方きつての経済人として活躍すると同時に、美術についても極めて見識が高く、そのコレクシオンの幅広さと質の高さは特筆されます。

当館が昭和63年、平成7年、17年の3回にわたってご遺族よりご寄附いただいた計170点は、美濃地方の茶陶を中心とする茶道美術と日本近代美術が中心で、当館所蔵品の中核となっています。

そして開館15周年となった平成22年度、新たに34点をご寄附いただきました。

本展はその新寄附作品のお披露目展です。根来の名品を中心に、朽木塗や重要美術品「後奈良天皇和歌懐紙」なども紹介します。

### ☆美術愛好家たちを魅了し続ける「根来」って?

中世に繁栄した紀州根来寺山内において製作され、主に僧侶たちの日用品や仏具として使用された漆器が、名前の由来とされます。

その造形は余分なものを排除し、用の美を追求したシンプルで飽きのこないもので、さらに色彩も朱と黒の斬新なコントラストが魅力的で、美術愛好家たちの心を惹きつけてきました。

木地固めを行った上に黒漆を下塗りし、その上に朱漆を重ねる。それらの品々は、長い年月を経て使用されることにより、表面の朱漆の磨耗やひ

び割れが生じていきます。そこに現れるのが下塗りの黒漆です。その表情は、自然に浮かび上がった美しさがあります。意図的に創られた美とは異なる美しさがあります。

長い時の流れ、人々の様々な生活の営みが刻み込まれた「根来」だからこそ、愛され続けているのかも知れません。

### 【主な作品紹介】

#### 「根来湯桶」一口

室町時代



湯桶は湯注・汁次・汁注とも称される、酒や湯などを注ぐ器です。元来は金属製で、点茶の折に禅宗寺院などで使われてきました。根来塗の湯桶は、椀や盆などと共に絵巻物や風俗画にも描かれ、平安時代末までには普及したと考えられます。

本作品は力強くどっしりとした胴部に入角をつけた提げ手を持つ湯桶で、底には三足がつけられています。自然に現れた黒漆と朱漆のバランスが絶妙で、味わいのある作品です。

#### 「根来春日卓」一脚

永正15(1518)年

このような鷲足形の四脚を持つ卓を「春日卓」といい、仏前や神前で供え物を置く台として使われ、茶席では香炉台としても使用されました。本作品は甲板から腰にかけて四隅を入



角形とし、側面には格狭間窓を設け、少し内側にカーブした細い鷲足が美しい優品です。甲板裏の銘により、室町時代の永正15(1518)年に製作されたことが分かります。根来塗は年紀のあるものが少なく貴重です。

#### 「桐唐草蒔絵角盥・桐唐草蒔絵椀」各一口

桃山時代

角盥は4本の手がついた盥で、そのほとんどが蒔絵による装飾を施したものです。中世・近世通して使用され、耳のついた耳盥が小ぶりなのに對し、角盥は大手洗のものが多くいます。

一方、椀は手や顔を洗い清める水(手水)を入れる器で、漆塗りの木製の他銀製のものもあり、柄のつくものもつかないものがあります。

角盥と椀は組になったものが大半で、本作品は共に蒔絵による桐唐草が大きく描かれ、桃山時代の特徴がよく表れています。



### ◇観覧料

一般	3500円	個人	2800円	団体	2200円
大高生	2800円				

※中学生以下無料・団体は20名以上です。  
※7/21～31「モントレー・ジャズ・フェスティバルポスター展」と共通料金です。

# 池田コレクション 新収蔵品紹介

☆①～③④全て池田輝三郎氏寄附

① 墨跡 「重要美術品」後奈良天皇和歌懷紙」1幅  
後奈良天皇（1497～1557）

② 日本画 「山水花鳥図」 双幅  
室町時代（16世紀）

松村景文（1779～1843）  
江戸時代（19世紀）

③ 漆工 「桐唐草蒔絵角盥」 1口  
桃山時代（16～17世紀）

④ 漆工 「桐唐草蒔絵椀」 1口  
桃山時代（16～17世紀）

⑤ 漆工 「根来手力盆」 1枚  
桃山時代（16～17世紀）

※春日神社伝来

⑥ 漆工 「根来湯桶」 1口  
室町時代（14世紀）

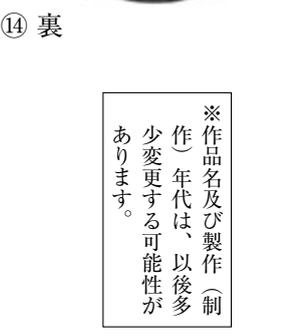
⑦ 漆工 「根来足付鉢」 1口  
室町時代（14世紀）

⑧ 漆工 「根来足付盥」 1口  
鎌倉時代（13～14世紀）

※鹿苑寺伝来

⑨ 漆工 「根来足付丸盆」 1枚  
室町時代（14～16世紀）

⑩ 漆工 「根来飯器」 1合  
室町時代（14～16世紀）



裏

⑪ 漆工 「根来春日卓」 1脚  
永正15年（1518）銘

⑫ 漆工 「根来高杯」 1本  
室町時代（14～16世紀）

⑬ 漆工 「根来円高杯」 1本  
天文4年（1535）銘

⑭ 漆工 「根来春日盆」 1枚  
室町時代（14～16世紀）

⑮ 漆工 「根来八足卓」 1脚  
室町時代（14～16世紀）

⑯ 漆工 「根来蓋付椀」 5客  
室町時代（14～16世紀）

⑰ 漆工 「根来杓子」 1本  
室町時代（14～16世紀）

⑱ 漆工 「根来杓子」 1本  
室町時代（14～16世紀）

⑳ 漆工 「漆絵変り丸盆」 5枚  
室町時代（14～16世紀）

㉑ 漆工 「桑名蕪図丸盆」 4枚  
江戸時代（17～19世紀）

㉒ 漆工 「桑名蕪図丸盆」 3枚  
江戸時代（17～19世紀）

㉓ 漆工 「朽木牡丹図盆」 1枚  
江戸時代（17世紀）

㉔ 漆工 「朽木流水花鳥図盆」 1枚  
江戸時代（17世紀）

㉕ 漆工 「朽木菊花文盆」 1枚  
江戸時代（17世紀）

㉖ 漆工 「朽木菊花文盆」 5枚  
江戸時代（17世紀）

㉗ 漆工 「時代秀衡椀」 2組  
江戸時代（17～19世紀）

㉘ 漆工 「蒔絵草花文銚子」 1対  
桃山時代（16～17世紀）

㉙ 漆工 「葡萄酒絵鍍金銚子」 1口  
室町時代（16世紀）

㉚ 漆工 「黒漆蒔絵羽箆文角切盆」 1枚  
白山松哉（1853～1923）  
明治～大正期（19～20世紀）

㉛ 漆工 「香礼蒔絵丸盆」 1枚  
大垣昌訓（1865～1937）  
明治～昭和期（19～20世紀）

㉜ 漆工 「蒔絵唐草文香合」 1合  
赤塚自得（1871～1936）  
大正～昭和期（20世紀）

㉝ 漆工 「古代朱漆沈金椀」 9客  
前 大峰（1890～1977）  
大正～昭和期（20世紀）

㉞ 漆工 「朱塗平文椿平棗」 1合  
大場松魚（1916）  
昭和時代（20世紀）

※作品名及び製作（制作）年代は、以後多少変更する可能性があります。

# 市民ギャラリー 展覧会案内

## 第16回 七尾日創展

7月7日(木)～10日(日)  
初日は午後1時から  
最終日は午後4時まで

公募により県内外から出品された日本画を中心とする絵画約60点を展示します。若さ溢れる作品からベテランの充実した作品まで、個性溢れる作品をお楽しみください。

主催 日創会(代表 丹羽俊夫)  
連絡先 三宅厚史  
☎0767(77) 1368

## 七尾港まつり協賛

## 第17回七尾美術作家協会展

7月16日(土)～18日(月・祝)  
最終日は午後4時まで

協会員102名が日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門にわたり近作を展示発表します。ぜひご覧ください。  
主催 七尾美術作家協会(会長 吉田隆)  
連絡先 七尾美術作家協会 橋本義則  
☎0767(53) 3011

## 60歳から日本画

## 半田昭也の世界

9月21日(水)～25日(日)  
最終日は午後4時まで

60歳から日本画を学び24年の歳月。私の世界観を絵にした60余枚の展示。短く長い制作の道程。人の世の苦楽味わいながら峠に向っています。これからも時代追求。鑑賞賜れば幸いです。  
主催・連絡先 半田昭也  
☎0767(52) 5412

# アートホール催し物案内

## ヤマハピアノエレキコンクール&エレキコンテスト2011ミヤコ音楽大会

7月3日(日) 開演 午後1時30分

小学生から高校生までのエレキトーンを学ぶ子どもたちが出場するヤマハエレキトーンイベントです。クラシック曲からポップス曲までソロやアンサンブルで演奏します。熱いステージをお楽しみください。

主催・連絡先 ミヤコ音楽堂  
☎0767(53) 0001

## 第9回石川県NOTOピアノコンクール

## 課題曲による公開レッスン

7月10日(日) 開演 午後1時  
8月6日(土)、7日(日) に行われるピアノコンクールの課題曲による公開レッスンです。講師は桐朋学園大学音楽学部特別講師の辻井雅子先生(同コンクール実行委員長)です。

入場料 1,500円  
主催 石川県NOTOピアノコンクール実行委員会  
連絡先 同会事務局(ミヤコ音楽堂内)  
☎0767(53) 0001

## クラシックピアノコンサート

7月23日(土) 開演 午後2時30分  
午後2時30分 地元の生徒さんの演奏  
午後3時 ソロコンサート

「演奏者」山本祐未「曲目」バッハ・ブゾーニ／シャコンヌ、ショパン／ノクターン、ドビュッシー／映像第1集、他。  
連絡先 yumi0132@hotmail.co.jp  
☎090-6270-0132

## ピティナ・ピアノステップ

7月24日(日) 開演 午前10時

この度、ピティナのと七尾ステーションでの第2回目のステップです。日頃の力試し、コンクールのリハールにもご活用ください。当日は、アドバイザーの先生より注意点などのアドバイスがいただけます。

主催 ピティナのと七尾ステーション  
連絡先 (株)開進堂楽器センター 金沢内  
☎076-221-1544

## 第32回 等伯まつり

8月5日(金) 開演 午後1時30分

等伯顕彰セレモニー  
箏・尺八の演奏、供茶、供歌供句、コーラス等。  
主催・連絡先 等伯会(石川県七尾美術館内)  
☎0767(53) 1500

## 七尾市健老大学講座 音楽鑑賞

9月6日(火) 開演 午後1時30分

前半はピアノやフルートによる演奏を、後半は大正琴の音色をお楽しみください。

受講料 500円  
主催・連絡先 七尾市教育委員会生涯学習スポーツ課  
☎0767(53) 3661

## 絵筆に宿る能登の心

長谷川等伯と西のぼる

9月8日(木) 開演 午後2時15分

能登の風土に育まれ、地方のハンディを克服して人の心を打つ作品を世に送り出すふたりの絵師。現代に生きる挿絵画家・西のぼる氏が等伯の絵筆に込めた思いに心をめぐらせる。

講演会に先立ち、午後1時15分から展示室にて西氏と学芸員によるギャラリートーク(観覧料各自負担)あり。ギャラ

リートークは定員50名(先着順)。参加希望者は9/1～6(土日除く)の期間に左記連絡先までお申し込みください。

主催 石川県大学図書館協議会  
連絡先 石川県工業高等専門学校図書館  
担当押見 ☎076-288-8015

## Dream's Piano Concert Vol.7

9月11日(日) 開演 午後2時

第7回目を迎えた「Dream's Piano Concert」。保育園児から高校生まで、日頃の成果をお聴きください。今年には新たに、ファミリー連弾や、合唱にも挑戦します。

主催 折田澄江・篠田千秋門下生  
連絡先 折田澄江  
☎090-1639-5924

## 第29回青柏民謡発表会「温習会」

『民謡風土記』

9月23日(金・祝) 開演 午後0時30分

芸能文化である民謡の伝承・発掘し、地域文化向上に貢献することを目標にしています。唄と踊り盛り沢山です。どうぞ、皆様お誘い合わせ、お気軽にご来場ください。

主催 青柏民謡会  
連絡先 中西清一  
☎0767(62) 3178

## 第8回メロディーパレット

9月25日(日) 開演 午後1時30分

一部は幼児から高校生の皆さん、そして卒業生のゲスト演奏。それぞれの個性を生かしたピアノ独奏の世界を、二部は人との和を大切にしたい楽しい世界を聴いていただければと思います。

主催 石田ゆかり門下生  
連絡先 石田ゆかり  
☎0767(53) 4628

## 第12回 石川県七尾美術館 友の会観賞の旅を終えて

今回は滋賀県大津市へ「国宝と世界遺産を訪ねる」をテーマに『園城寺(三井寺)』と『比叡山延暦寺』に向かいました。

当日は朝から雨模様。日本全体を覆っている雨雲のせいも、能登有料道路、北陸名神自動車道、どこまでも雨が追いかけてきます。

予定時刻より少し遅れて『園城寺(三井寺)』に到着。まずは重要文化財に指定されている仁王門の前で集合写真撮影。緑鮮やかな樹木が茂る境内、細かい砂利の坂道と石段を上り金堂へ。

さらに雨は激しくなり、御堂の大きな屋根から流れ落ちる雨水は、まるで滝のよう…。『散策』には程遠く足早に『光浄院客殿』特別拝観へ。園城寺僧侶の中西氏が建物の特徴、障壁画や庭園について丁寧に解説してくださいました。

『光浄院客殿』はお客様をお迎えする建物で床の間には狩野山楽筆の障壁画、また、襖には四季の花が鮮やかに描かれ、お客様をもてなす気持ちが表現されています。一方、『勸学院客殿』は学問をする場であり、僧侶が学び成長する姿が、襖絵の中では鳥が成長していく姿で表されています。



園城寺(三井寺) 仁王門前にて



どこへ行くにも傘で…



比叡山延暦寺 根本中堂

た。参加者の皆さんは、制作当時そのままの姿の障壁画を鑑賞できる贅沢な空間を堪能している様子。その余韻にひたりながら園城寺を後にし、比叡山へ。

雨雲につつまれた比叡山は「霊峰」そのもの。天候が良ければ、車窓から琵琶湖を一望できるらしいのですが、山全体に「もや」がかかっているように登るにつれ下界とは切り離されて行く感じが…。到着するも、雨足が強まってきたため、特別に延暦寺会館で準備してくださったバスに乗り換えて昼食場所へ、滋味深い精進料理でほっと一息。会館内売店も人気でした。

食事後、参加者全員で国宝・根本中堂内において延暦寺の歴史や1,200年灯り続ける「不滅の法灯」のお話しを聞くことができました。

その後、自由散策の予定だったのですが、ほとんどの方が『国宝殿』で寺宝鑑賞をされているようでした。帰路は、運転手さんお勧めの湖西道路を利用し、琵琶湖の眺めを満喫。

日本海側には台風2号が接近しており、雨風がさらに強まり七尾に到着するころには立っていられないくらいの強風と横殴りの雨に。

残念ながら一日中雨づくしだったのでありますが、皆様のご協力のもと、無事旅行を終えることができました。ありがとうございました。

### 喫茶室からのお知らせ

「長谷川等伯展」(8/6~9/11)

期間限定新メニュー

●黒ごま豆乳(アイスorホット) 400円  
香りの良い練り黒ごまとはちみつを、豆乳にブレンドしました。コクがあってヘルシーな味、クセになりそう♪

●抹茶豆乳(アイスorホット) 400円  
豆乳に、七尾・一本杉のお茶屋さんのお抹茶をブレンドしました。  
きれいな緑白色でお茶の風味もさわやか。

●ひんやり手作りジェラートと「かりっ」と大学いも 550円  
能登産ミルクを使用したジェラートと「かりっ、ほっくり」の大学いもが出会っておいしいデザートになりました。

●夏の焼きおにぎり盆  
「ずんだもちデザート付」 750円  
おいしくて手軽なお食事メニューです。焼きおにぎり(3ヶ)、鶏南蛮唐揚げ、中島菜のお漬物、お吸い物、ずんだもちデザートも付いています。



↑ひんやり手作りジェラートと「かりっ」と大学いも



↑夏の焼きおにぎり盆  
～ずんだもちデザート付～



# これからの展覧会予定



◆第1・2展示室

## 「秋の所蔵品展」

～池田コレクション・

日本画、彫刻作品を楽しむ～

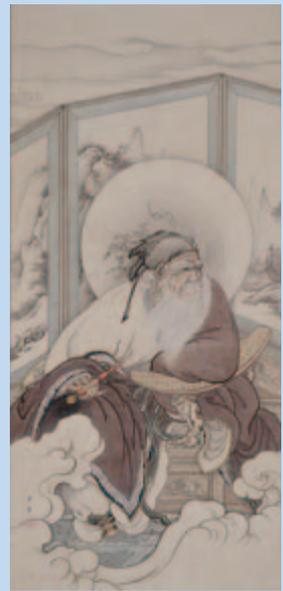
～それぞれの風景と街の表情～

9月17日(土)～10月30日(日)

第1展示室では、七尾市出身で岐阜県大垣市を拠点に中部地方きっての経済人として活躍した池田文夫氏(1907～87)が生前に蒐集した美術品コレクションより、狩野芳崖・川合玉堂・菊地契月などの日本画に彫刻作品を加え、約20点を展示します。

また、第2展示室では、国内外を問わず様々な街や風景を描いた現代日本画・洋画作品を中心に、約25点を紹介します。

「維摩居士図」 狩野芳崖 池田コレクション



◆第1・2・3展示室

## 「2011イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

11月11日(金)～12月18日(日) 会期中無休

毎年、ボローニャで開催される絵本原画コンクールには世界中から応募があります。本展では同コンクールより20カ国76名の個性豊かな入選作品を紹介します。また、特別展示として、昨年、ボローニャ・ブックフェアとスペインのSM財団によって創設された「ボローニャSM出版賞」(35歳以下のボローニャ展入選者が対象)を受賞した、フィリップ・ジョルダーノ(イタリア)の新作絵本『かぐや姫』から原画やスケッチを紹介します。印刷された絵本からは感じることのできない原画の魅力をお楽しみください。会期中、絵本アニメ上映会や絵本作り子どもワークショップなども開催します。



「塔」(「プレーメンの音楽隊」より) トンカ・ウズ(ブルガリア)



割引、プレゼントなど特典いろいろ / ぜひ当館でもご利用ください。



飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分  
車……金沢から能登有料道路利用約1時間15分  
タクシー……JR七尾駅から約5分  
徒歩……JR七尾駅から約20分  
市内循環バス「まりん号」  
……JR七尾駅前「ミナ、クル」ビル裏バス停から西回り「七尾美術館前」下車  
なおおコミュニティバス「ぐるっと?」  
……JR七尾駅5番乗り場から西コース「小丸山台1丁目」下車

### 休館日のお知らせ

(7月～9月)

- ◆7月 1、4、11、19、25
- ◆8月 1～5
- ◆9月 12～16、20、26

◎次号・第67号(秋号)は10月1日発行予定です。

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台1丁目1番地  
TEL(0767)53-1500 / FAX(0767)53-6262  
<http://nanao-art-museum.jp>

石川県七尾美術館だより

第66号(夏号)